福島県白河市に分布する前期更新世のローム層の古地磁気・岩石磁気

Reversed paleomagnetic directions from the Early Pleistocene tephric loess beds in Shirakawa area, south Northeast Japan

植木 岳雪[1]
Takeyuki Ueki[1]

[1] 産総研・地質情報
[1] GSJ/AIST

ローム層の古地磁気の有効性を検証するために，前期更新世のローム層の古地磁気・岩石磁気測定を行った．従来，ローム層の古地磁気についての研究は少なく，その安定性についてはほとんど議論されていなかった．福島県白河市には，約 120 万年前の芦野火砕流堆積物と約 110 万年前の西郷火砕流堆積物の間にはさまれる，層厚約 5 m のローム層と降下テフラ層の互層が認められる．この中の 8 枚のローム層から採取した定方位コア試料に対して段階交流消磁実験および段階熱消磁実験を行った結果，すべてのローム層からリバースの磁化方位が決定された．これらのローム層は松山クロンの磁化方位を 100 万年間以上保持しており，その他の地域でもローム層の古地磁気方位・極性を求めることは十分可能であると考えられる．今後，ローム層の古地磁気を用いて更新世の地形・地層およびテフラの年代精度を向上することが期待される．